

再 評 価 書

箇所名	一般国道477号 菰野バイパス	事業名	道路事業	課名	道路建設課 (四日市建設事務所)
事業概要	工期	H20年度～H33年度	全体事業費 (下段当初)	3,800百万円(負担率:国5.5:県4.5)	
	(下段当初)	H20年度～H33年度		3,800百万円(負担率:国5.5:県4.5)	
事業目的及び内容					
<p>■当該路線の概要</p> <p>一般国道477号は、四日市市の国道23号を起点とし、三重県菰野町、滋賀県大津市、京都府京都市を経て大阪府池田市に至る延長約226kmの道路です。</p> <p>当路線は、県北勢地域を南北に縦断する国道23号、国道1号、整備中の北勢バイパス、東名阪自動車道などの道路を東西に連絡する道路で、「湯の山街道」と呼ばれています。</p> <p>一般国道477号のバイパスとしては、現在、四日市中心市街地から東名阪自動車道や平成30年度開通予定の新名神高速道路に連絡する「四日市インターアクセス道路」の整備を進めているところです。</p> <p>現道の一般国道477号では沿道の開発が進んでおり、交通量も多く、ミルクロードと交差する宿野(しゅくの)交差点など全線において渋滞が慢性化しています。また、近くには湯の山温泉がありますが、特に、紅葉シーズンは長蛇の列ができています。</p> <p>菰野バイパスは、その整備により、四日市インターアクセス道路と一体となって、交通渋滞の緩和、交通安全の確保、観光地へのアクセス強化、さらには新名神や東名阪へのアクセス強化など様々な事業効果が期待されています。</p>					
<p>■事業目的</p> <p>当該事業は、四日市インターアクセス道路と一体となった整備を行い、現道交通の分散化を図り、円滑な交通を確保します。合わせて、観光地や物流拠点へのアクセス強化を図ります。</p>					
<p>■事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画期間 14年間(平成20年度～平成33年度) ・全体事業費 3,800百万円(工事費:3,140百万円、用地補償費:660百万円) ・計画延長 L=2.0km(起点)菰野町大字音羽～(終点)菰野町大字千草 ・幅員 W=11.25m ・主要構造物 橋梁 1橋 					
事業主体の再評価結果					
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要性が生じたため、三重県公共事業再評価実施要綱第2条(4)に基づき再評価を行いました。</p>					
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>2-1 事業の進捗状況</p> <p>①平成27年度末の事業進捗率は、1%(工事1%、用地0%)となっています。</p> <p>②これまで、地元との調整と並行して用地買収に向けた作業を進めてきました。昨年度、事業区間すべての地区から計画内容について概ねの理解が得られたところです。現在、詳細な計画内容を検討するとともに、本格的な用地買収に向けた作業を進めています。</p> <p>2-2 今後の見込み</p> <p>今後は、早期の用地買収完了と工事着手に努め、平成33年度の全線開通に向け事業を推進します。</p>					

3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

菰野町内の国道477号の交通量は、平成17年度から22年度で約7%、平成22年度から27年度で約15%増加しており、平成27年度の交通量は約9,600台/日になっています。

また、平成33年には「三重とこわか国体」が開催される予定です。菰野町や四日市市内では複数の会場が予定地に選定されており、湯の山温泉が関係者の宿泊地になることも予想されます。菰野バイパスや四日市インターアクセス道路を利用することで、定時性が確保され、関係者や来場者の円滑な移動が可能となります。

このように、菰野バイパスを取り巻く社会情勢は変化しており、その必要性はさらに高まっています。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

事業区間全体の費用対効果分析の結果は、

走行時間短縮便益 72.7億円

走行経費減少便益 7.7億円

交通事故減少便益 0.2億円

総便益 80.6億円

総費用 31.5億円

費用便益比は「2.6」となります。

4-2 その他の効果

① 災害時のネットワーク強化

現在整備中の広域防災拠点施設北勢拠点へのアクセス強化、災害時の緊急輸送道路としてのネットワーク強化に貢献します。また、三次救急医療施設である市立四日市病院への搬送時間が短縮され、救命率の向上に寄与します。

② 菰野町の都市マスタープランに位置づけ

「菰野町都市マスタープラン（平成21年3月策定）」に当該事業が位置づけられており、菰野町の土地利用計画の展開に寄与すると考えられます。

4-3 地元の意向

沿線自治体では、四日市インターアクセス道路と合わせた菰野バイパスの整備推進を要望しています。また、湯の山温泉協会からも温泉街に直結する菰野バイパスの早期整備を求める声が上がっています。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

橋梁には耐候性鋼材の使用を検討し、塗装費用の削減に努めます。また、維持管理費を抑えるため、法面の一部に張コンクリート施すとともに、盛土材については、他工事と調整し流用土の活用を検討するなどコスト縮減に努めます。

5-2 代替案

計画ルートについては、事業延長や既存家屋への影響などをもとにルート案を比較、検証しています。現計画ルート案は最も経済的な最適ルートであり、採用したところです。

再評価の経緯

当事業は、平成20年度に事業着手しており、今回初めて再評価を行います。

事業主体の対応方針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条1項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。